

第八十二回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」「古都鎌倉」歴史探訪
「Ⅶ」11月7日(木) 寿福寺・海蔵寺・化粧坂・源氏山・葛原岡神社・

集合場所；横須賀線鎌倉駅西改札口9時50分厳守同時出発)

① 行程：鎌倉駅→正宗稲荷→巽神社→八坂大神→寿福寺→英勝寺→海蔵寺→化粧坂→源氏山→葛原岡神社→銭洗弁財天→佐助稲荷→鎌倉駅。

② 昼食場所；若宮通り2の鳥居ビル「浅羽屋」・TEL；0467-22-1222。

1・鎌倉駅西口公園時計台の由来

大正5年に建った鎌倉駅は大変ハイカラで鎌倉らしい建物だった。昭和の初めと

んがり帽子に時計が付き、いかにもおとぎ話風のまなざしで、何時も鎌倉の町を眺めていた。駅の改築が決まったとき、永く馴れ親しんできた市民は駅舎の取り壊されるのを惜しんで、せめて時計台だけでも残したいという声がおき青年会議所が街頭募金等も行った、大きな市民運動となった。此の懐かしい時計台はこうして市民の熱い愛郷精神によって時計台として残ったものである。昭和58年3月。公園の説明板より。

2・巽神社（巽荒神・寿福寺鎮守寺の南東、巽タツミ、鬼門・祭神奥津日子神、奥津日女神、火産靈杵杵神・例祭11月28日・境内社諏訪社）

801年（延暦20）坂上田村麻呂が東国をしずめるためこの辺りに来た時、葛原岡に神を迎えと言う。その後、1049年（永承4）源頼義が社殿を改築し、今の場所に移したと言う。石灯籠は鶴岡八幡宮にあったもの。古くから寿福寺の巽（南東）の方角に当たって、寿福寺の鎮守であったと言う。

3・正宗の井戸・刃稲荷（ヤハ・正宗稲荷）

刀鍛冶五郎正宗（父籙三郎行光・正宗は日蓮が正しい宗教の意を込め付けた名）継母お秋が病気になった時鶴岡八幡宮に全快を祈って寒中に水を浴びて身を清め、お参りした、井戸と言うが、位置からして、正宗の子孫刀造り名人山村綱広が用いた井戸と思われる。正宗がまつた、刃稲荷；石造りの一對の狐・標識「正宗稲荷」・「稲荷社 正宗屋敷 焼刀渡 天明壬寅（1782年）9月 浅草石工勝助」小町置石（鳥居の近く）の滝右衛門が再興したと言う。

4・寿福寺（臨済宗建長寺派・鎌倉五山第3位・五山；1位建長、2位円覚、4位浄智、5位浄妙）

1200（正治2）年に北条政子が頼朝の父、義朝の旧邸跡に栄西を招いて創建。最盛期には十数カ所塔頭を擁する大寺であったと言う。実朝・政子の墓と言いい伝えられる五輪塔のあるやぐらがある。

☆国指定文化財等；木造地藏菩薩立像、銅造薬師如来坐像、紙本墨書喫茶養生記（重文国宝館）・木造栄西禅師坐像（胎内文書）（県指定重文国宝館）・絹本著色釈迦16善神像、紙本墨画白衣観音図（市指定国宝館）。

☆名僧；開山明庵（ミンアン）栄西は二度の入宋により、我が国に臨済宗を伝え、喫茶養生記を実朝に献じた。

☆文学碑；星野立子歌碑（高浜虚子次女）、明治36年、東京生まれ。鎌倉高女、東京女子大卒。昭和7年青山から由比ヶ浜に移転同年11年笹目町に転居、以後此処に住み没す。俳句は一貫して父の手引き指導と援助を受ける。「雛飾りつゝふと命惜しきかな」。墓地内

○海上寿子（ウガミコ）歌碑、1860年（万延元）東京牛込生、15才頃から師について和歌を学んだ。昭和21年86才没。「抜いでむふしはねがはずくれ竹の　むなしきをこそこころとはせめ」。墓地内

○米川稔歌碑、明治31年山口県生、長崎医学専門学校大正8年卒、同10年慶應義塾大学医学研究室、薬学や、産婦人科を学び、昭和3年医学博士。昭和18年宇都宮師団入営、翌年ニューギニアで自決。「ぬばたまの夜音（ヨ）の遠音（トホ）に鳴る潮の　大海（ウミ）の響動（トヨミ）きはまらめやも」

☆鎌倉十橋「勝の橋」；扇ガ谷川に碑有り、既に川は暗渠になり、橋は消滅しているが、橋の名は英勝寺開山尼、お勝の局（徳川家康側室）に由来する。

十王堂橋（山ノ内）・勝の橋（寿福寺門前）・裁許橋（今小路）・琵琶橋（下馬四つ角）・逆川橋（大町）・乱橋（材木座）・夷堂橋（本覚寺門前）・筋違橋（雪の下）・歌の橋（金沢街道）・針摺橋（極楽寺）。

5・八坂大神（相馬天王・扇ヶ谷鎮守・祭神素戔鳴尊、桓武天皇、葛原親王、高望丸王・例祭7月12日・境内社子神社・木製神輿は独特の六角形で京都八坂神社神輿を模したもの・神徳疫病除、農業、商業）

建久3年（1192）頼朝家臣千葉常胤（ツネネ）の子、相馬師常が勧請した京都の八坂神社の神と、相馬師常を祀っている。師経は頼朝挙兵の際父と共に助けた人で、この辺りに住んでいたと言う。

6・英勝寺（浄土宗・東光山・仏殿、徳川家光寄進阿弥陀三尊を中心に善導、法然大師の木造安置、かつて茶会等利用を除き非公開であったが、300円団体割引対象外、基本木曜日閉門）

もと太田道灌の屋敷跡で、鎌倉唯一の尼寺。道灌の4代目子孫大田康資（ヤスサキ）の娘で徳川家康の側室となったお勝の局（後英勝院・お梶の局、関ヶ原に大勝利した家康からお勝と改めるよう言われた）が建てた。

お勝は水戸家を創始した徳川頼房（ヨシフサ）の養母となり、家康の死後出家して寛永13年（1636）英勝寺を建立すると頼房の娘小良姫（サトメ・玉峯清因）を開山とし、以後水戸徳川家の娘君が代々住持に入り、格式の高さを誇った。寺領420石、建長寺より多く、寺でありながら大名屋敷のような仕組みをもっている。山門には葵の徳川家の縄文を付けた屋根を持つ総門がある（通常出入りできない）。通用門は大竹の帰郷紋と奥川家三葉葵をあしらった柵を設けた門であ

る。

鐘楼（県重文）；寛永20年＝1643大河四郎左衛門作、学舎林羅山銘・仏殿（県重文）；軒下に「もこし・軒下壁面の庇様の差掛、雪打造（ユヅクリ）建築、法隆寺金銅、薬師寺三重等」と言うひさしを付けた円覚寺舍利殿の様な禅宗仏殿形式、もこしの臺股（カエルマタ・社寺建築で過重を支える部材で蛙が股を開いた様になっているから）には十二支の彫物が見られる・総門（県重文）・唐門（県重文）・祠堂（県重文）（いずれも創建当初の建物）。

☆国指定文化財等；絹本著色龍虎図屏風（狩野栄信筆・市指定国宝館）

☆花便り；春」フジ、秋」トウカエデ・ヒガンバナ・ハギ、冬」ワビスケ。

7・海蔵寺（臨済宗建長寺派・鎌倉三十三観音26番・鎌倉二十四地蔵第15番・鎌倉十井、底脱ノ井・鎌倉十井；鉄、星、棟立、瓶、甘露、泉、扇、六角、銚子・拝観料100円）

鎌倉時代の七堂伽藍が焼失した後、応永元（1394）年鎌倉公方足利氏満の命により、上杉氏定が心昭空外を招いて再建。薬師堂は安永5（1776）年に浄智寺から移したもので、薬師像の面部を胎内に納めた薬師如来像が祀られている。

底脱ノ井；修行中の尼が水を汲むと、桶の底が抜け、もやもやが、スット解け悟りが解けたと言う。岩窟中にある16井戸、中央に石造りの観音菩薩像・その下方に弘法大師像。

☆国指定文化財等；石造阿弥陀三尊図板碑、阿弥陀如来図板碑（市指定国宝館）。

☆花便り；春」シャクヤク・カイドウ、夏」ノウゼンカズラ・キキョウ秋」ハギ・ホトトギス・サザンカ、冬」スイセン・フクジュソウ・ツバキ。

☆文学碑；「千代能がいただく桶の底ぬけて水たまらねば月もやどらず」底脱の井歌碑・「侘（ワ）び住めば八方の蟲四方の露」清水基吉句碑・「一六の井の名所やをほろ月」金子一峰句碑。

○清水基吉；本名基嘉大正7年東京青山生、横光利一門下、俳句を石田波郷に師事、昭和16年波郷主宰の「鶴」に参加、石坂友二、巖谷大四、村松定孝らと同人誌「辛巳」を発行、同志に「芋の露」を発表した。翌18年同人誌統合の「日本文学者」に雨絃記」を発表、芥川賞候補、同19年同誌に発表した「雁立」により戦前最後の第20回芥川賞受賞。昭和20年海蔵寺門前に移住し、その後、雪の下、腰越、大船などに転居、活躍。著書句集「宿命」昭和41年・「冥府」同47年・「虚空の歌」同49年・「俳諧師芭蕉」同53年・「俳句入門」同45年・「俗中の真」同62年等。

○金子一峰；現在までには金子一峰の詳細は不明だが、佐助稲荷にも一基あった。一峰は東京深川あたりの住民で、句補建立の申し出があり、一度断ったが再度の依頼があり許可したと言う。

8・化粧坂（仮粧坂）切通し「七口；極楽寺・大仏坂・亀ヶ谷・巨福呂（小袋）坂・名越・朝比奈」

7口の切通しは鎌倉の出入り口であるとともに、防御の拠点でありました。化粧坂の由来は平家の武将の首を化粧して首実検したからとか、このあたりに娼家があったとか諸説あります。

新田義貞の鎌倉攻めのとき激戦地となった処。

9・葛原岡神社（由比ガ浜鎮守・祭神文章博士日野俊基・例祭6月3日・境内社えびす大黒天社・社宝大黒天像、えんびす神像・神事芸能お渡り神事・神徳学業成就、除災招福、交通安全、縁結・伝俊基墓宝篋印塔国指定史跡）

明治20年（1887）日野俊基を祭神に創建。日野俊基（トシト）は鎌倉幕府の荒廃を憂い、後醍醐天皇を中心とした倒幕計画を進めるが幕府に捕らえられ葛原岡で処刑された。

☆文学碑；辞世句「秋をまたで葛原岡に消ゆる身の露のうらむや世に残るらん」。

俊基終焉之地碑・宮下翠舟句碑

☆花便り；春」ソメイシロ・ツツジ。

☆歳時記；6／3日野俊基祭礼。

10・源氏山公園

後3年の役で八幡太郎義家が山上に白旗を立て戦勝祈願したという伝説から、源氏山、白旗山と呼ばれる。源頼朝像・春サクラ、お花見場所。

11・銭洗弁財天宇賀福神社（祭神本宮市杵島姫命、奥宮弁財天・例祭中祭4月初巳日、大祭9月白露巳日・境内社7福神社、水神宮祭水波売神ミズハノメカミ・神事芸能鎌倉神楽大祭中祭・名水、銭洗水）・（五名水；金龍水・不老水・日蓮乞水・梶原太刀洗水）

天下安泰を願う源頼朝に、巳の年の文治元年（1185）巳の月、巳の日の夜、「この水で神仏を供養すれば天下は泰平に治まる」という夢のお告げあり、建てられたと伝えられます。その後、北条時頼が銭をこの水で洗い、一家繁栄を祈ったことになり、人々が銭を洗って幸福利益を願うようになったと言う。

12・佐助稲荷神社（祭神宇迦御魂命、大己貴命、佐田彦命、大宮女命、事代主命・2月初午日・社宝豊受姫命、神徳商業繁栄、病氣平癒、学業成就、縁結び・狐の石像・元は鶴岡八幡宮飛び地境内社、明治42年1909独立）

社伝によると、源頼朝が伊豆に流されていた頃、此処の稲荷神が夢に現れ挙兵を勧め、助けたということから「佐助・頼朝の幼少名佐助」佐助稲荷と名が付いたと伝えられる。

案内図縮尺約 1/10000

縮尺約 1/10000

